

文科省に聞く!

定員を上回る学生の応募を受け止めるしくみを整備したい

文部科学省では2021年12月から翌1月にかけて、大学生・大学院生を対象に、自ら枠を超えて行動を起こし価値を創造する精神を養う「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」を実施しました。イノベーション創出等に携わる10数人の大学教員が設計・指導するプログラムをオンラインで提供。受講生はグループワークを通じて、課題設定や仮説の立案・検証などを実践しました。3日間集中の「コース1」、週1回×8週間の「コース2」、定員計1050人に対し、応募者は1368人。男女、学年、地域などにめだつた偏りはなく、全国にアントレプレナーシップ教育への潜在的なニーズがあることを実感しました。

民間への委託事業*1とはいえ、文部科学省、しかも高等教育局ではなく科学技術・学術政策局が直接的に人材育成を行うというのは、過去にあまりなかったかもしれません。ただ、日本のアントレプレナーシップ育成が待たなしの状況の中では、私たちも進んで「ことを起こす」必要があると考えました。

アメリカ・バブソン大学がその教育の歴史を100年以上積み重ねるなど、欧米ではアントレプレナーシップが専攻や学位として広く認められています。日本はSociety 5.0という大きな社会変革を志向しているにもかかわらず、「自分で国や社会を変えられると思う」と考える人材が他国と比べて著しく少ない*2のが現状です。ようやく10年ほど前から、高等教育界でこの分野が注目され出したものの、意義を理解する教員や教えられる教員が少ない、教育後に成果を発揮する道筋が整備されていない、といった課題を抱えています。

今回のプログラムは、より多くの大学に広げるための検証事業という位置付けです。現在、参加した学生、実施に協力いただいた大学教員、プログラムを傍聴した大学教員らへの調査や意見交換を行ってお

「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」実施の狙いは? 諸外国に後れを取る中、教育の裾野を広げるため

文部科学省
科学技術・学術政策局
産学連携・地域振興課
産業連携推進室長

下岡 有希子

しもおかゆきこ ●2003年文部科学省入省。高等教育局学生・留学生課課長補佐、千葉県野田市教育委員会教育長への出向、初等中等教育局健康教育・食育課課長補佐等を経て、2021年より現職。



り、その結果をふまえ、今後もアントレプレナーシップ醸成を支援するプログラムを展開したいと考えています。

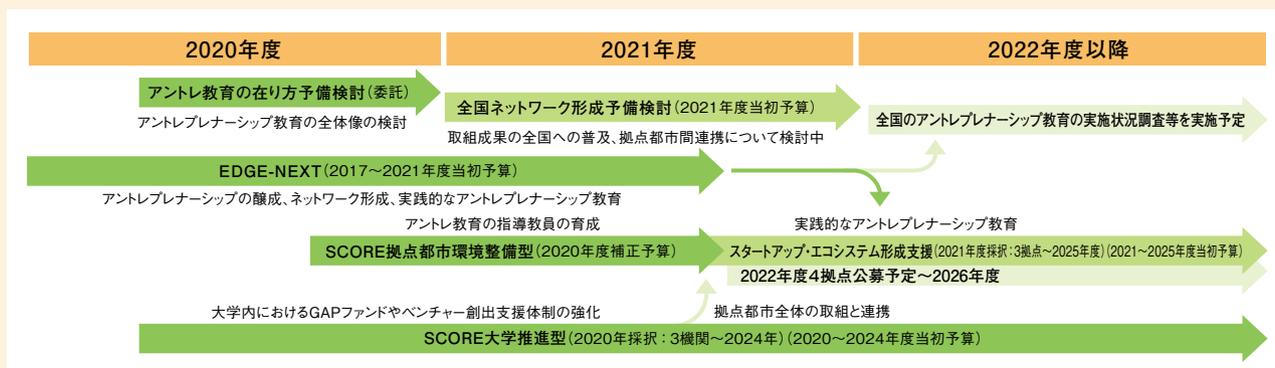
単独ではなく他機関と力を補い合い 地域一体で教育、実装を

本省のアントレプレナーシップ教育施策は、若手研究者や大学院生の起業を支援する「EDGE」*3、コンソーシアム単位でアントレプレナーシップやベンチャー創出力を育てる「EDGE-NEXT」*3と、徐々に対象者、育成する力の幅を広げてきました【図表4】。並行してイノベーションを生み出す拠点の形成も支援しており、「スタートアップ・エコシステム形成支援」の拡充を予定しています。今後は、本教育の標準的なプログラムを開発するとともに、エコシステム拠点都市*4をその実践の場にしていこう構想を持っています。

さらに、地域の中核大学を地方創生の駆動力にすべく、総合科学技術・イノベーション会議にて、各省庁がバラバラに行ってきた支援事業を一括で提供する「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」を2月に策定しました。

起業と相性のいいデータサイエンス教育が全国の大学に根付き始めており、これをビジネスにつなげたいと考える学生は今後増えるでしょう。また、初等中等教育が取り組む探究学習も、主体的に課題解決に挑む姿勢がアントレプレナーシップと通じます。これらの教育の推進にあたっては、スタートアップ・エコシステム拠点都市や、中核大学等を軸とした大学間・高大・地域連携によって特色を生かし合い、地域一体で行う姿を思い描いています。

【図表4】アントレプレナーシップ教育支援事業の流れと今後(検討中)



*1 有限責任監査法人トーマツ *2 日本財団「18歳意識調査[第20回・社会や国に対する意識調査-]」(2019年) *3 正式名称は、EDGE:グローバルアントレプレナー育成促進事業 EDGE-NEXT:次世代アントレプレナー育成事業 *4 「スタートアップ・エコシステム拠点都市」(内閣府):【グローバル拠点】東京、名古屋、浜松、大阪・京都・神戸、福岡 【推進拠点】札幌、仙台、広島、北九州